REGULAR
CLOSE UP

外　　科

当科の概要

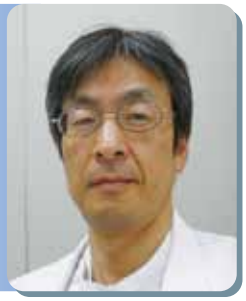
当科は以前より札幌近郊は勿論のこと、道北・道南・道東といった全道各地から様々な疾患に対し様々な患者さんの手術を行ってきました。これは当院が総合病院として各科のバックアップ体制が整っているから慢性腎不全、虚血性心疾患、膠原病などの何らかの合併症を抱えた患者さんの手術にも対応可能であることからであると思っています。当科は日本外科学会、日本消化器外科学会の認定施設であり、スタッフ６名全員が外科学会の専門医であり３人は指導医、また日本消化器外科学会の専門医は３人で２人が指導医と認定されています。

診療体制

本年度はスタッフ６名と後期研修医２名が通常勤務で、そこに短期間だけ初期研修医が研修に入るという体制で診療を行っております。外科離れ？のためか昨年度と比べ初期研修医の希望者が少なく、忙しく日常診療をこなしている状況です。対象疾患は一般外科、消化器疾患全般の他、乳腺疾患などです。毎週火曜日に合同カンファレンス（キャンサーボード）で消化器内科、放射線診断科、病理診断科が集まり患者さんにとってどのような治療がベストであるか検討しています。また毎週木曜日には外科カンファレンスで術式などを最終的に決定しています。

化学療法室

昨今、新規抗癌剤・分子標的薬の開発、適応拡大により術後抗癌剤化学療法の役割が増大しております。大腸癌、胃癌、膵癌などの術後補助化学療法や再発後の抗癌剤治療を行う機会が増えたことにより、患者さんのニーズも考慮に入れ主に外来で治療を行うべく化学療法室でこれを行っています。



外科
部長
三澤　一仁

NST

術後の補液・栄養管理は現在、末梢栄養と早期経口摂取が主体となっています。しかし食道癌や膵頭十二指腸切除などは経腸栄養療法を積極的に併用し、これらメジャーサージェリーの症例や術後に栄養管理の点で問題になる症例は医師、看護師、管理栄養士、薬剤師、検査技師、言語聴覚士が参加するチームで栄養を評価し術後患者の早期回復を図っています。

症例数

昨年の実績は全手術件数799例、全身麻酔604例、定期手術658例、臨時手術141例でした。このうち悪性腫瘍に関しては胃癌切除48例（腹腔鏡手術6例）、結腸癌切除58例（腹腔鏡手術23例）、直腸癌切除34例（腹腔鏡手術4例）、肝癌切除18例、膵頭十二指腸切除12例、乳癌切除86例などです。

終りに

患者さんに対し高いレベルで最良で優しい手術・治療を提供できるように常日頃心がけて診療を行っておりまのでどうぞご今後ともご紹介宜しくお願いいたします。

前列右より：大島隆宏医長・佐野秀一理事・三澤部長
後列右より：深作慶友後期研修医・武田圭佐医長
大川由美乳腺外科副部長・菊地一公医長
西澤竜矢後期研修医・上坂貴洋初期研修医